グローバルな学びとeラーニング

2017年3月17日

一般社団法人eLearninig Initiative Japan 理事長

特定非営利活動法人 Asuka Academy 副理事長
一般社団法人 IMS-Japan 副理事長

内閣府認定特区高等学校 明蓬館高等学校 理事

岸田 徹

使われる。結果を出す。**Net** Learning。**Quality**.



Photo by Ed Brambley and Lifescience Resources Haw

AFP WAA (フランス通信社 World Academic Archive)



[AFP WAA]

環境破壊

開講中!

お申込みはこちらをクリック

分野:科学·教養

サンプルを見る

延べ学習書数 9,868名 (2016年10月24日現在)



文部科学大臣賞

受賞講演 受付中!

「グローバルなOERコンテンツを活用した 次世代アクティブ・ラーニングの取り組み」

広尾学園 金子暁 教務開発部長 NPO法人 Asuka Academy 福原美三 理事長

日時: 10月28日(金)16:50~17:30

会場: 御茶ノ水ソラシディカンファレンスセンター、

ルームA

お申込みはこちら

事前申込みで無料となります↑

AFP WAA (フランス通信社 World Academic Archive) NEW!



[AFP WAA] 自然を守る

開講中!

お申込みはこちらをクリック

分野:科学·教養

サンブルを見る

eラーニングアワード2016フォーラム 特別講演

オープンエデュケーション& アクティブ・ラーニングトラック: グローバルなコンテンツの本格活用が今、始まる



1. オープニング・スピーチ:福原美三教授 (NPO法 ↓ Asuka Arademv理事長)

会員登録

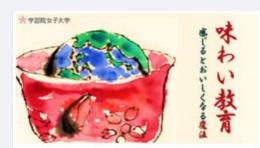


f wwa! OpenLearning, Japan



● Information ● 年末年始のお問い合わせ対応について

- ■2016/10/21 年末年始のお問い合わせ対応について
- ■2016/10/11 学習院女子大学 2講座目「味わい教育~感じるとおいしくなる魔法」開講!
- ■2016/10/07 杏林大学「社会のしくみ -社会保障を学際的に考える-」の受講受付開始!
- ■2016/10/03 東京農工大学『農学がよみとく「いのち」と「生活」 ~持続発展可能な社会へ~』の受講受付開始!
- ■2016/09/15 JMOOCのことが何でもわかる!? オンラインチャンネル「JMOOC CAST」本日より配信開始!
- ◆会員登録がお済みでない方はこちらより登録いただけます。(会員の方には、新講座の開講予定や受講申込開始などの情報をいち早くメールにてお届けします。)
- ◆「修了証」は受講期限から4日~5日後に発行されます。発行日については、各議座案内ページの「テストの配点とスケジュール」欄でご覧いただけます。



味わい教育~感じるとおいしくなる魔法

反転学習コースあり

学習院女子大学

品川明

2000年の知を旅しよう

世界を変えた書物 - 原著で辿る科学知の潮流

金沢工業大学

竺 覚暁



農学がよみとく「いのち」と「生活」 ~持続 発展可能な社会へ~

東京農工大学

野村 美宏、高田 秀重、横山 正、武田 庄平



The Open University

Access an international qualification through a premier university appointed under Royal Charter



TOP

オーブン・ユニバーシティとは

MBAクオリティ

MBAプログラム

1年· 単科履修生

マネジャー向け英語

企業の皆様へ

The Open University TOP

A A A

The Open University Business School MBA

3つの国際認定をもつMBA

1年間の修了証取得コース

マネジャー向け英語コース

説明会・体験ワークショップ

日本にいながら海外MBA

英国国立オープン・ユニバーシティ

3つの国際認定をもつハイクラスのMBA









MBA認定機関として権威ある3つの国際認定、AACSB, EFMD EQUIS、およびAMBAを保持する世界的にも希少なMBAをインターネットを使って日本で取得。日本のブログラムでトリブル認定を受けているMBAブログラムはありません。

- NEW 【MBA: 2016年11月入学】締め切りました。次回募集は2017年1月!
- ▶ 英語の不安な方は:Mini MBA(Global Communication Skills)入学願書受付中!
- ▼マイナビ学び特集: OU在校生インタビュー!オンラインで世界品質のMBA
- ▼イナビニュース記事:「グローバルビジネス社会では必須の道具"MBA"」

お問い合わせはこちら●

個人

法人

毎月開催!セミナー/ワークショップ

- MBAプログラム説明会
- 2016年秋期入学個別相談会

● 世界のどこにいても、可能性を最大限に引き出す

The Open University Business Schoolは、1983年の開学時より、遠隔教育により世界中の国々、約91ヶ国でMBA修了生を送り出しています。修了生数は、2009年に2万人を超えました。

同校のMBAプログラムは、ビジネススクールおよびMBA認定機関として権威ある3

認定一覧





学生・卒業生の声



<u>クリスティーン・ジャックマン</u>

2007年修了生 Purple Tree Communications社 ディレクター

グローバルな学習最前線が eラーニングで広がっている

- •eラーニングは、学びのグローバルネットワーク 学習教材、学習プロセス、協働学習
- ・教育のグローバル化と学びのグローバル化
- 学習履歴世界標準Caliper の登場
- グローバルな教育と学習におけるeラーニングの役割

そして、OCW、MOOC、OER・・・

ネットラーニングの企業概要



設立: 1998年1月12日

事業内容: e ラーニングトータルソリューションサービス

ユーザ法人数: 4,586社(校)

のべ受講生数: 3,476万7人

提供講座数: 5,970コース(自社制作)

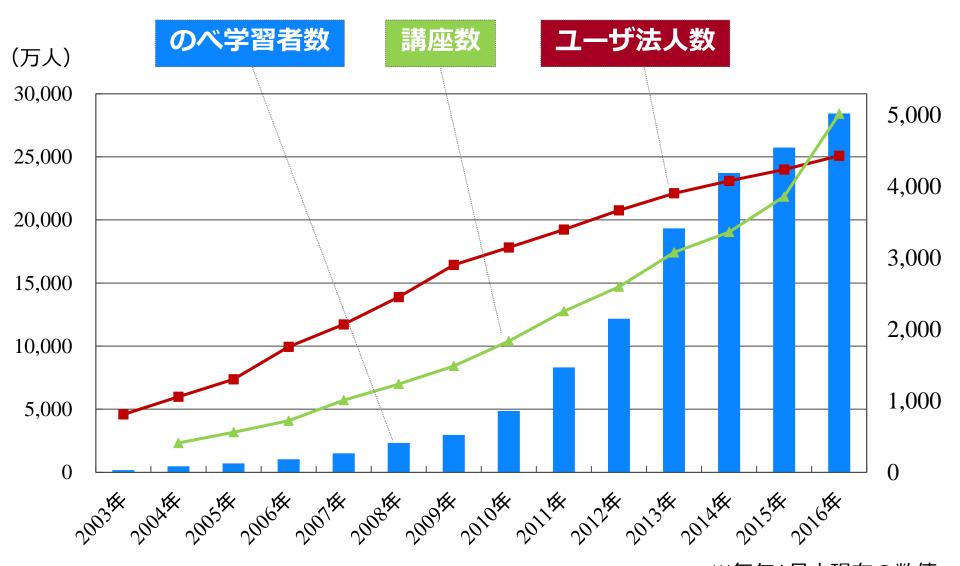
提携大学: 英国国立オープン・ユニバーシティ (The Open University)

提供プラットフォーム: Open Learning Japan(JMOOC)

協力NPO: Asuka Academy

学習者数・講座数・ユーザ法人数の推移





※毎年1月末現在の数値

どのような時代か?

- ■核エネルギー
- ■遺伝子編集
- ■宇宙への進出
- これからはじまる
- 学習能力をもった コンピュータ、人工知能
- lot、すべてがつながる 巨大ネットワーク

NASAの人型ロボットR5



人生100歳時代、その時代に生きている。

- ムーアの法則: すさまじいスピード 10の27乗
- グローバル化をふくめ、社会システムや産業構造を根本からかえる根こそぎの大規模な変化 (例)自動運転、電気自動車、シェアリングが、自動車産業をまったくちがうものにする。
- 人生も学びもまった変わる

教育・研修・学習の世界も例外ではない。 ITの活用。プラットフォームとしてのLMS 各社がいっせいに動く

教育・研修・学習が根本的に変わる

■学習がネットにつながった。 履歴が見えるようになり、学習プロセスを設計し、支援し、指導し、共有できるようになった。 学習者が、クラウドの世界につながり、あらゆるアクティブな活動の中で、学習活動を展開できるようになった。 学習者が、協働学習の本当の力を手に入れた。

■ 一人ひとりの孤独で、他人からはブラックボックスであった学習が、みえるようになり、つながって、学びの本来の力を開放した。

■学びがみえるようになった。

→学びの支援ができる 学びの指導ができる 学びの共有・協働ができる 学びの設計ができる 学びで評価がかわる

→学びが進化する!!

■そして、ラーニング・デザインの登場

本来の学びの力を手に入れたネット学習が、教育・研修にとりいれられ、統合されたときに、ダイナミックラーニングがうまれる。

反転学習・反転教室という言葉に象徴されるように、 統合されると、教室や集合研修がまったくちがうように なる。ネット学習も協働学習もまったくかわる。

■ネット学習が、教育・研修をつつみこむ。

ダイナミックラーニング

PC タブレット スマートフォン フィーチャーフォン 教室・集合研修 学習履歴 VR Iot ビッグデータ

実践と 深く く集合> 結びつく 教室•集合研修 ネットライブ [教育•研修] <協働> <個別> ソーシャル・ eラーニング ラーニング [学習] [協働学習]

■ 学校教育は、激変する。
 アメリカの大学で始まった新しい動き
 OER、OCW、反転教室
 教育における破壊的イノベーション
 (ハーバード大MBAクリステンセン教授)
 学校教育に学びがとりいれられる

■ 教育ビジネスも激変する ネットの学習の導入、 あるいは、ネットの学習が主流に。

- ■世界標準Caliper の本格的な普及 日本でも、日本IMS協会がスタート ネットラーニングのLMSが、日本初Caliper 搭載の認証
- ■世界中の学習履歴の統合
- ■学習者の個人履歴の統合
- ■そして、ビッグデータの活用

■ 第二世代eラーニングがはじまる。

動画に活用した場合 Caliper Analytics



[Metric Profiles]

学習者のどのような学習履歴を取得するかを定義したもの

たとえば、講義動画にて学習した場合

- ▶Media Playerにて、講義動画を視聴開始した
- ▶動画を一時停止した
- ▶全画面表示した
- ▶巻き戻しした
- ▶再生スピードを変更した
- ▶音をミュートした



学習履歴(Learning Events)

■Metric Profilesによる定義

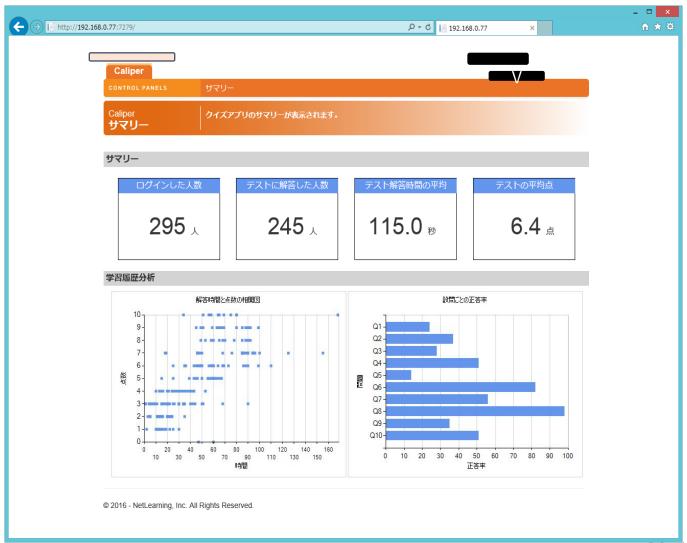
Paused (Requ	Paused (Required)														
Actor	Object	Target	Generated eventTime			edApp	Group	Membership	Federated Session						
R	R - Media Object	R - Media Location	N/A	R		0	0	0	0						

Jumped To (Optional)													
Actor	Object	Target	Generated	eventTime		edApp	Group	Membership	Federated Session				
R	R - Media Object	R - Media Location	N/A	R		0	0	0	0				

Ended (Required)													
Actor	Object Target		Generated eventTime			edApp	Group	Membership	Federated Session				
R	R - Media Object	N/A	N/A	R		0	0	0	0				

Changed Spe	Changed Speed (Optional)														
Actor	Object	Target	Generated	eventTime		edApp	Group	Membership	Session Federated						
				_		_	0	_							

実装の例



Net Learning Quality.

当社LMSが、日本初Caliper の 公式認定をうけました

IMS GLOBAL



- ■日本の教育機関でもフル活用の可能性
- ■個人が学習履歴をもちあるくことができる (学習履歴は、だれのものか)
- ■個人の生涯の学習履歴を活用できる
- ■ビッグデータ分析ができる 機械に学習させる Google がツールを公開(なぜか) いかなるデータをいかにあつめるか Caliperの決定的な役割

機械学習によるビッグデータ分析

学習パターンと成績の関連

タイプ	割合	1		2		3		4		5		6		7		8		9		10		正答率
Α	8.35%	1	0.3667	2	0.2642	0	0.2286	3	0.0608	4	0.0281	5	0.0110	8	0.0089	7	0.0087	6	0.0085	9	0.0029	90%
В	7.76%	0	0.7261	1	0.2121	2	0.0183	3	0.0128	5	0.0058	6	0.0048	4	0.0034	8	0.0031	7	0.0031	12	0.0013	91%
С	6.85%	2	0.1020	1	0.0890	3	0.0801	4	0.0795	0	0.0792	5	0.0745	6	0.0563	12	0.0539	8	0.0489	13	0.0431	93%
D	6.46%	6	0.2346	7	0.2272	5	0.1098	4	0.0804	8	0.0700	2	0.0605	3	0.0602	1	0.0551	9	0.0332	0	0.0313	92%
E	6.33%	25	0.5744	24	0.1128	26	0.0351	21	0.0299	23	0.0293	22	0.0255	20	0.0176	0	0.0148	19	0.0144	15	0.0125	79%
F	6.10%	21	0.1331	22	0.0558	23	0.0467	20	0.0467	16	0.0407	7	0.0406	19	0.0403	15	0.0365	4	0.0364	8	0.0355	83%
G	5.90%	3	0.3308	2	0.2284	1	0.1387	4	0.1128	0	0.0711	5	0.0426	6	0.0252	7	0.0166	8	0.0116	9	0.0070	90%
Н	5.83%	10	0.2451	9	0.2439	8	0.0912	11	0.0818	7	0.0734	6	0.0534	4	0.0375	5	0.0342	0	0.0310	3	0.0274	92%
I	5.41%	5	0.2561	4	0.2558	0	0.1181	1	0.1087	3	0.0783	2	0.0729	6	0.0681	7	0.0156	8	0.0052	9	0.0039	91%
J	4.80%	14	0.1962	15	0.1890	13	0.1531	12	0.0462	9	0.0413	8	0.0403	16	0.0401	7	0.0357	10	0.0355	11	0.0335	91%
K	4.77%	23	0.3259	24	0.2086	25	0.0950	22	0.0464	20	0.0283	14	0.0260	19	0.0207	0	0.0184	15	0.0182	1	0.0181	91%
L	4.43%	17	0.2079	16	0.1790	18	0.0709	15	0.0708	10	0.0400	7	0.0384	11	0.0374	12	0.0332	14	0.0302	9	0.0293	92%
М	4.35%	11	0.3416	12	0.2431	10	0.0919	13	0.0868	9	0.0338	8	0.0257	7	0.0202	6	0.0201	5	0.0157	2	0.0157	93%
N	4.12%	22	0.3500	23	0.1243	21	0.1134	24	0.0771	20	0.0437	19	0.0338	25	0.0335	18	0.0263	15	0.0183	16	0.0170	92%
0	3.60%	26	0.4918	25	0.1532	24	0.0515	23	0.0304	22	0.0231	19	0.0154	21	0.0152	6	0.0138	11	0.0137	20	0.0120	85%
Р	3.54%	1	0.1449	0	0.1378	2	0.0935	25	0.0743	3	0.0734	24	0.0405	4	0.0399	22	0.0383	23	0.0321	26	0.0224	93%
Q	3.31%	18	0.2461	19	0.2221	17	0.0621	13	0.0456	20	0.0434	14	0.0431	15	0.0294	9	0.0197	3	0.0195	11	0.0178	90%
R	3.30%	8	0.5082	7	0.1078	9	0.0662	5	0.0466	1	0.0428	4	0.0416	0	0.0404	2	0.0382	6	0.0360	3	0.0294	88%
S	3.01%	20	0.4304	19	0.1368	21	0.0899	18	0.0445	17	0.0328	23	0.0254	22	0.0245	16	0.0242	15	0.0239	24	0.0226	88%
Т	1.78%	24	0.4400	9	0.1393	10	0.0887	25	0.0858	45	0.0364	22	0.0273	8	0.0185	26	0.0160	23	0.0107	5	0.0105	88%

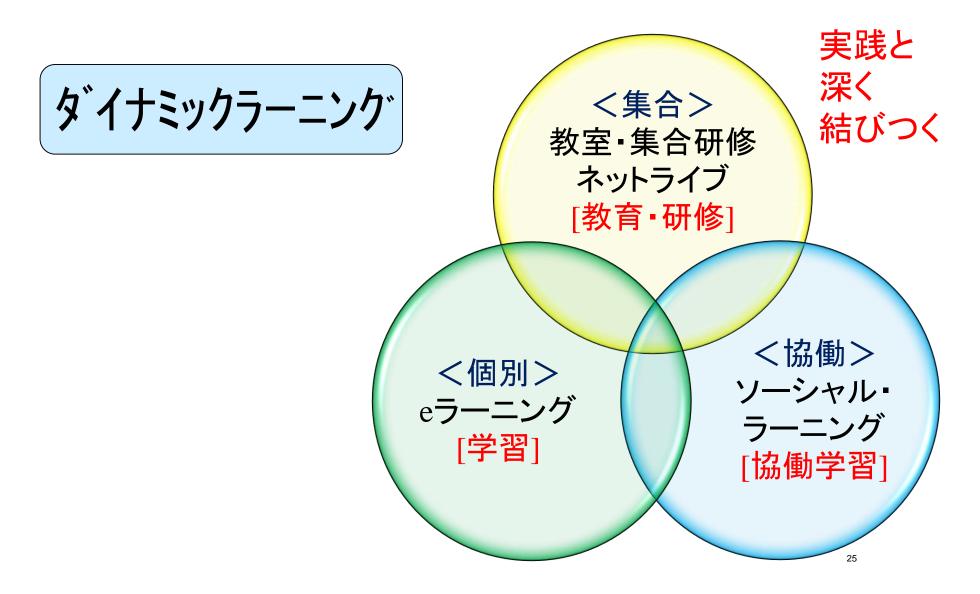
- ■ネットは、人と人をむすぶ。
- ネットのライブ・グループディスカッション
- ■チャット、専用掲示板
- 資料・成果物の共有
- 提出された課題の相互評価

- eラーニングは、個別・能動・協働をフル活用する。
- 学習履歴・ビッグデータ→個別
- ネットワークとクラウド→アクティブ
- ■人につながるネットワーク→協働
- いかに、それをラーニング・デザインするか。

■ たんなる教材設計ではない。
学習プロセスの設計!

- 学習教材は、クラウドのネットワークのなかで、コンテンツの海となる。
 - まず、コースウェアは部品化され、自由に組み合わあせて学習される。
 - 学習履歴とビッグデータにより、個人別の学習ルートが自動生成される。
- ■学習者は、テストへの解答、課題作成、調査研究・分析など、クラウドのなかで、積極的な学習活動を展開する。
- ■チュータの役割

そのeラーニングを教育研修と統合



学習履歴をいかに活用するか

誤答分析の活用

最初の数問の誤答分析で、出題をかえる。

レベル判定では、レベルをさぐりあて、そのレベルの 問題を集中的に出題する。

弱点分析では、弱点ある分野をさぐり、弱点分野のレベルも判定

完全習得学習では、そのスタートラインをさぐる。 出題をかえながら、わからないポイントをみつける。 合否判定では、合格ラインに近い受験者を正確に判 定するために、そのレベルの問題を集中する。

レベル判定テスト 弱点分析テスト 合否判定テスト わからないところを判定するテスト 完全習得判定テスト 練習問題 模擬テスト 確認テスト 学習効果測定テスト くテストに必要な時間が短く、効率的>

- ■二次方程式の場合
 - 最小学習単位に分割

係数のある二次元方程式

係数に分数がふくまれる二次元方程式 係数に小数点がふくまれる二次元方程式 係数が1である二次元方程式

- 二次元方程式の解法
- 誤答分析・解答不能から、理解できていないポイントを みつけ、そこまでもどって、解説しながら理解させる。
- 理解できれば、次のステップへ、あるいは、類題による 練習。
- ■出発点から、完全習得学習のつみかさね。

- ■即時確認の原則
- 誤答分析による解説の表示と次のステップの生成
- 同レベルの出題による練習と学習特性の分析 まちがいが多い場合のビッグデータ分析
- ■学習スピードと正解率、その他の学習特性分析 (ビッグデータ分析も)
- ■手書き分析
- ■やる気度の分析や自己申告
- ■解答にかかる時間の分析と学習ルートの生成 集中度、正確度、個性・・

- どのくらい時間をかけて学んでいるか。
 問題別の解答に要した時間、1回の学習時間
- ■いったんまちがったあと、正解に訂正したのか、あるいは逆だったのか。
- ■解答の順番

■ビデオのように学習プロセスを再現することもできる。

■ 自動生成と人によるサポート

学習プロセスのサポート

- つまづきサポート
- ■学習計画サポート
- やる気サポート

アンケートの分析



- ■さまざまな統計的な分析
- ■ビッグデータ分析



INITIATIVES ▼ DEVELOPERS ▼ PRODUCT DIRECTORY

LEARNING IMPACT ▼ LEADERSHIP •

IMS Global Learning Consortium Announces Products Certified to the Newly Released Caliper Educational Analytics Standard

Caliper Removes Significant Barriers to Collecting and Analyzing Data to Support Student Success.

Lake Mary, Florida, USA – October 20, 2015 - IMS Global Learning Consortium (IMS Global), the world leader in EdTech interoperability and impact, has announced that nine leading EdTech products have achieved conformance certification to the newly released Caliper Analytics™ standard, the world's first interoperability standard for educational click stream data.

Caliper Analytics enables the collection of high rate real-time event data, via software sensors (or the Sensor API™) and information models (known as

- ■ビッグデータのeラーニングにとっての価値
 - 学習効果=学習目的の達成+学習効率

■eラーニングにおけるビッグデータ

個別履歴があるビッグデータの活用

■まず、修了率のアップ

なぜ学習個別履歴が大切か?

学びの革命

- ■学習は、ずっと個人にまかされ、他人からはブラックボックスでありつづけた。
- 教材やラジオ・テレビ番組や通信教育が提供され、 宿題がだされ、あとは自分で学習しなさい。

「ラーニング・アローン」

- ■自分で考える 好奇心、思考、発想、創造
- ■自分でアクションをおこす
- ■個別 学習速度、理解度、レベル、テーマ・・・
- ■完全習得学習
- ■学びは標準化できない

- ■モチベーション・達成
- ■手ごたえ・面白さ
- ■つまづきの発見と解決
- ■多少の強制



学びが見えるようになった!

■学びがみえるようになった。

→学びの支援ができる 学びの指導ができる 学びの共有・協働ができる 学びの設計ができる 学びで評価がかわる

→学びが進化する!!

■そして、ラーニング・デザインの登場

Edupub & Caliper

オンライン教育の現状と課題

プラットフォームや教育アプリケーションのサイロ化 学習履歴の断片化が発生している

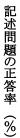


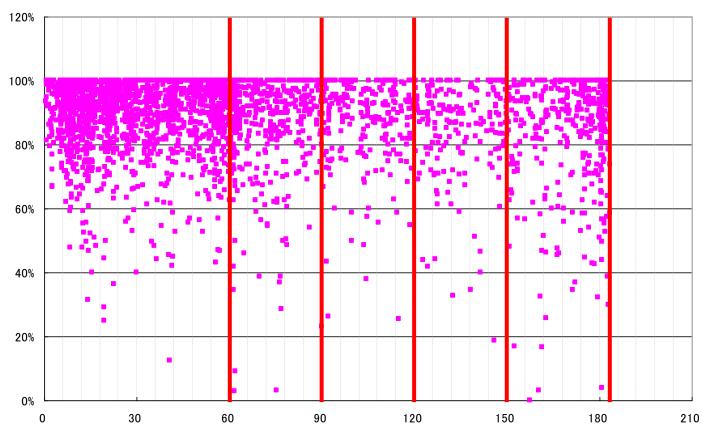


Caliper による学習履歴の標準化

Caliperフレームワークの学習履歴の標準化により、 システム間の相互運用が可能となる 【Caliperのコンセプト】 Learning Metric Profiles 学習履歴の有効活用化 · Learning Sensor API LTI / LIS / QTI LMSから外部アプリの利用 Video LMS App Learning **Events** DB DB Report Sensor **Analytics** API ビデオ視聴履歴が Store LMSへフィードバック

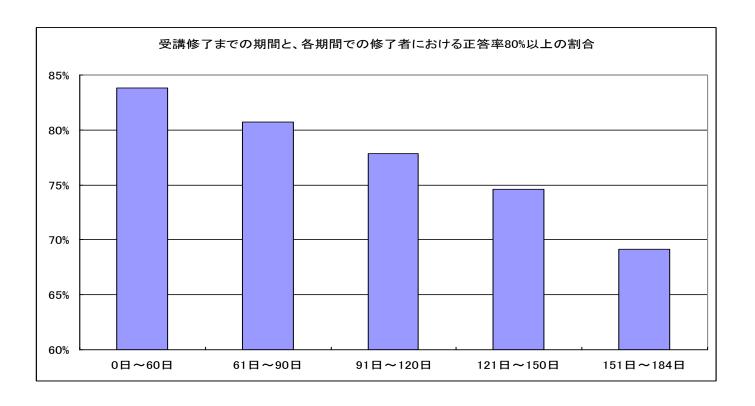
受講修了までの期間とテスト正答率の相関





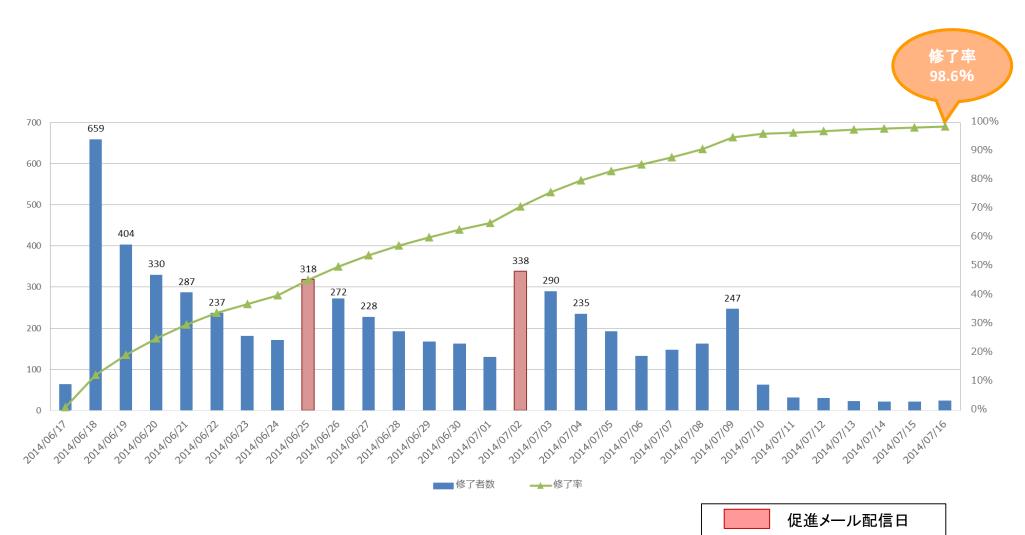
修了にかかった日数 (日)

各受講期間での修了者における 正答率80%以上の受講者の割合



受講者約6,000名

開講から受講期限までの日別修了者とその推移。修了率は98.6%。





午後、特に14時~16時台に学習する方が多かった。また、水曜日のアクセスが多く見られます。

曜日別ログイン数

3500 3500 3000 2500 2008 2000 1159 1033 1139 1000 500

水

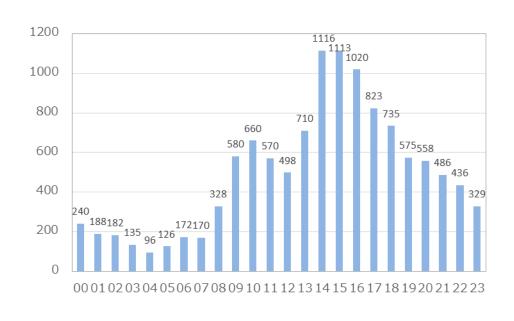
火

木

金

 \pm

時間帯別ログイン数



月

0

 \Box

【学習成績分布】



80点台が一番多く、続いて90点台、70点台です。

以下の2つの表の結果に大差が見られないのはWeek1から最終テストまで挫折する人が少ないからだと思われます。 (P12参照)

また、表1のほうは10点未満や10点台がやや多いのに対し、表2は一人もいないことから最後まで受講する人はみんな 熱心で真面目に勉強したことがわかります。

表1: テスト回答者全員の集計 (一つしかテストを受けていない人も含める)

100点 90点~ 80点~ 70点~ 60点~ 50点~ 30点~ 10点~ 10点~ 10点~

表2: すべてのテストを受けた人を対象にした集計

